

Webサイト『親子で学べる発音教室』

【研究の背景】

構音指導を行うには、専門的知識と経験を必要とします。研究代表者らは、平成21年に共同研究『構音障害のある子どもが自ら学べる動画教材と配信技術の開発』の成果として教員向けのWebサイト『ネットで学ぶ発音教室』(<http://forum.nise.go.jp/kotoba/>)を公開し、言語障害教育を担当する先生方の自己研修やことばの教室での指導等に利用していただいています。

一方、ことばの教室に通う子どもや保護者の中には、家庭でも何かできることはないかと考えている方がいます。こうした方々に対して、家庭でできそうな遊びを通した練習を紹介する必要があると同時に、ことばの教室ですべき練習を、家庭で先取りしないような啓発もする必要がありますと考えました。また、乳幼児期に我が子の発音に対して漠然とした不安を感じている保護者もいます。こうした方々に対して、構音の発達について解説する必要があると考えました。

以上のような内容をWebサイトから動画や静止画を用いてなるべくわかりやすく発信したいと考え、本研究を計画しました。

【研究の目的】

上記を踏まえ、本研究は以下の3つのコンテンツ等を作成、公開することを目的としました。

- ① 構音障害のある子どもや保護者が、家庭で無理なく発音練習ができるコンテンツ
- ② 我が子がことばの教室に通っている保護者に対して、家庭での練習のあり方を啓発するコンテンツ
- ③ 我が子の発音について不安な保護者向けに、構音の発達を解説するコンテンツ

【研究の成果】

Webサイトのトップページ URL : <http://forum.nise.go.jp/oyakotoba/>



【コンテンツ例】

<聴こうとしたり聴きとったりするあそび：おおかみさん、いま何時？>

視覚やその他の情報によらないで、聴覚だけをたよりに情報をキャッチして遊ぶことを通して、「聴く」ということを体験的にわからせて、音への興味・関心や注意集中の力、聴こうとする態度と聴き取りの力を高めたり確かめたりします。

子どもがおおかみになり、おうちの人に背を向けて目を閉じます（写真）。

おうちの人子どもから離れた位置から、ささやき声で、「おおかみさん、今何時？」と声をかけます。

声かけは、真後ろ、右斜め後ろ、左斜め後ろなどと位置を変えて行います。

それに対して子どもは、「まだ朝ですよ」「昼ですよ」「もう夜ですよ」などと答えます。

「夜ですよ」と答えた時は、おうちの人をつかまえに行くときです。おうちの人「夜ですよ」と言われたら、つかまらないように逃げます。

おおかみ役を交代しておうちの方が務めます。答えはささやき声で子どもに背を向けたまま言うようにします。



【Webサイトの構成】

全体は3部構成になっています。

第1部『発音の誤り＝障害？』では、構音の誤りは発達の過程で誰にも生じるものであるなど、構音障害に関する考え方を示しました。

第2部『おうちでできることは？』では、家庭でできる遊びをいくつか紹介し、遊びや日常生活の中で、構音の発達が自然に促進されることを解説しました。

一方、このような遊びは日常生活動作の中でうまくいかないことがある場合、想定される原因を解説し、専門機関の利用を勧める内容を記述、掲載しました。

第3部では『練習した方が良い場合もあります』では、特に、すでに「ことばの教室」を利用している親子向けに、家庭での発音の練習の進め方や、ことばの教室との連携のあり方について解説したものを掲載しました。

なお、言語障害教育を担当する先生向けのWebサイト (<http://forum.nise.go.jp/kotoba/>) には、本サイトのリンクをつけています。

【試作版の評価結果から】

【親子で学べる発音教室】の試作版を言語障害教育担当の先生ほか62名の方に評価していただきました。その結果「このWebサイトは保護者にわかりやすいか？」について、「わかりやすい」31%、「ややわかりやすい」46%、「ややわかりにくい」21%、「わかりにくい」2%という結果でした。

この結果から、保護者に使っていただけるものと判断しましたが、さらに、表現を簡明なものにするなどの修正を実施し、正式版を公開しました。

本リーフレットは、本研究所と独立行政法人理化学研究所が行った共同研究を基に作成しています。

【研究課題名（研究期間）】

共同研究「親子で学べる構音障害改善のためのデジタルコンテンツ開発」

（平成21年度）

【研究組織／問い合わせ先】

共同研究機関：独立行政法人理化学研究所

研究代表者：久保山茂樹

(kuboyama@nise.go.jp)

研究分担者：小林倫代